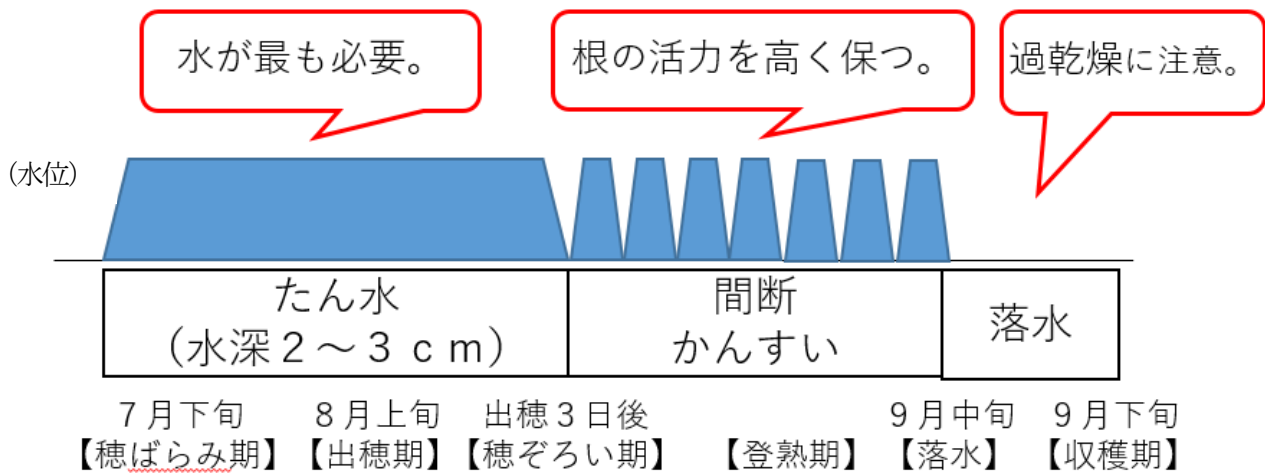


出穂後はこまめな水管理を！

県内の水稲の生育は、7月の天候不順の影響を受け、例年より4日ほど遅れています。今の時期から登熟期の水の管理には注意が必要です。また、8月の平均気温は高くなる見込みです。米が白く濁る「乳白米」や亀裂が入り割れやすくなる「胴割粒」は水不足が大きな要因ですので、水稲が水分ストレスを受けやすいこの時期には、こまめな水管理を行いましょう。

〈水管理イメージ図 (例) コシヒカリ 5月上旬田植〉



●穂ばらみ期～出穂期はたん水にする。

●落水の目安は出穂から30日ごろ。登熟期間は間断かん水をおこなう。

・間断かんがいは、根に必要な水分や酸素を補給するために行います。2～3cmにたん水し、その水がなくなったら入水をする（入水と落水を2～3日おきに繰り返す）管理をしましょう。

※登熟期に高温が続く場合は、かけ流しかん水を行い稲の温度を下げてください。

●刈り取り2～3日前までは、田面の足跡に水が残る程度に水分を保つ。

- ・田面が深くひび割れるほど乾燥すると、胴割れ粒や茶米などの着色米の発生の原因となります。
- ・落水後収穫までの間に乾燥がつづく場合は、走り水程度のかん水をしてください。

●刈遅れに注意。

・とくに登熟期が高温の場合、茎や葉の黄化より、籾の登熟が進むことが多くなります。籾が過熟となると胴割れ粒が増えるため、籾の黄化状態に注意して収穫をおこなってください。

峡南農務事務所 農業農村支援課
 (峡南地域普及センター) 生産振興担当

055-240-4131